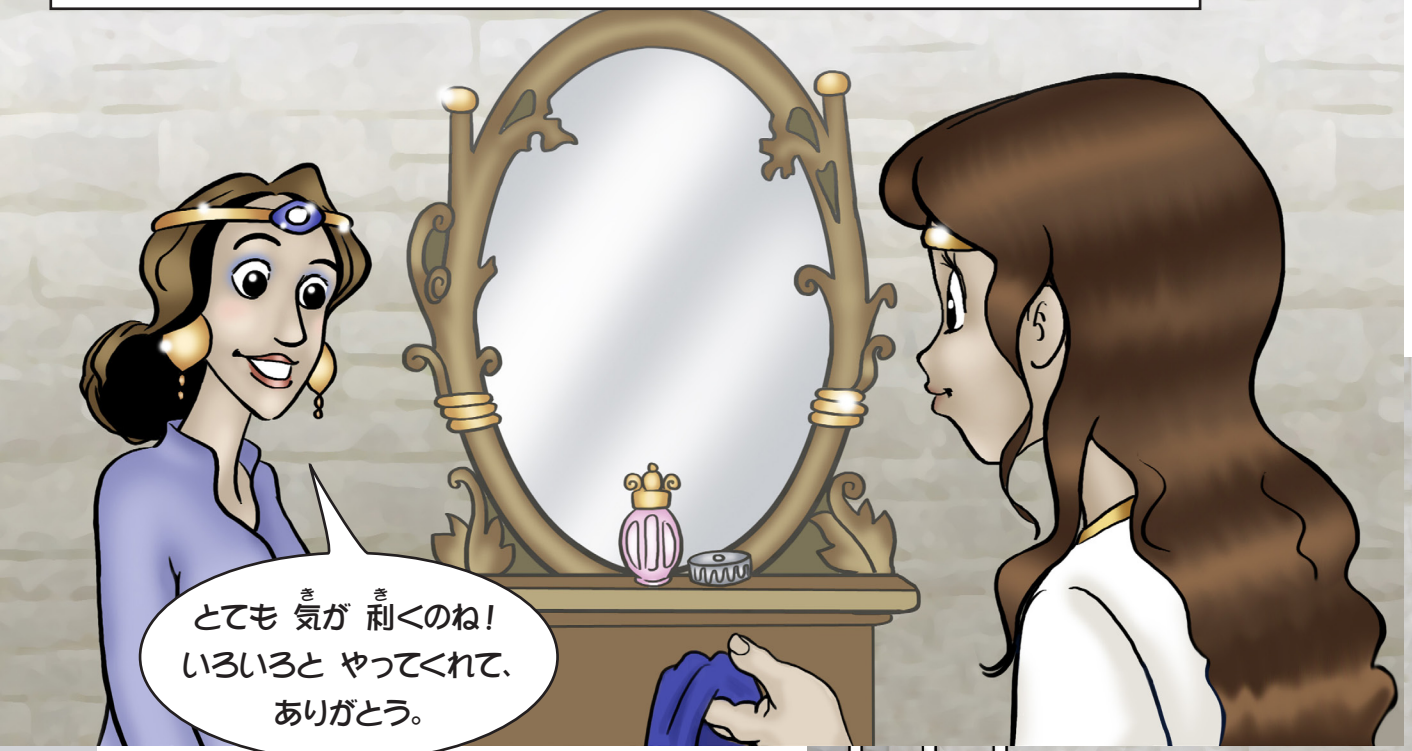
思いやりの ある しもべ

聖書の 列王記下 5:1-15 には、興味深い お話が のっています。捕虜として故郷から 連れ去られ、シリア軍の 司令官だった ナアマンの 妻の 使用人と なった、ヘブル人の 少女についての お話です。

ナアマンは、不治の病である 重い 皮膚病に かかりました。ナアマンの 妻は、とても 心配していました。ナアマンの 妻の 使用人だった ヘブル人の 少女は 彼女に、預言者エリシャなら きっと ナアマンを いやせると 言いました。

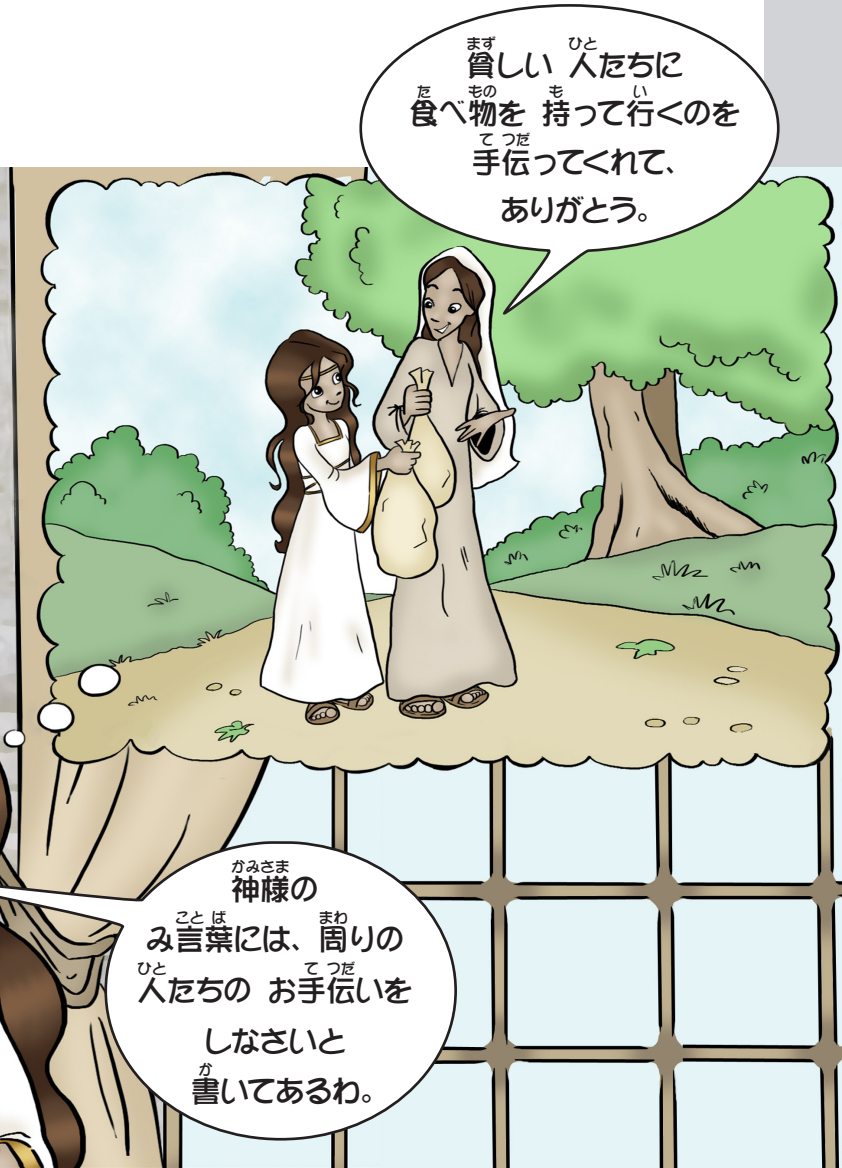
ナアマンは、いやされるために しなさいと エリシャに 言われたことを しました。すると、ナアマンの 重い 皮膚病は 治ったのです。

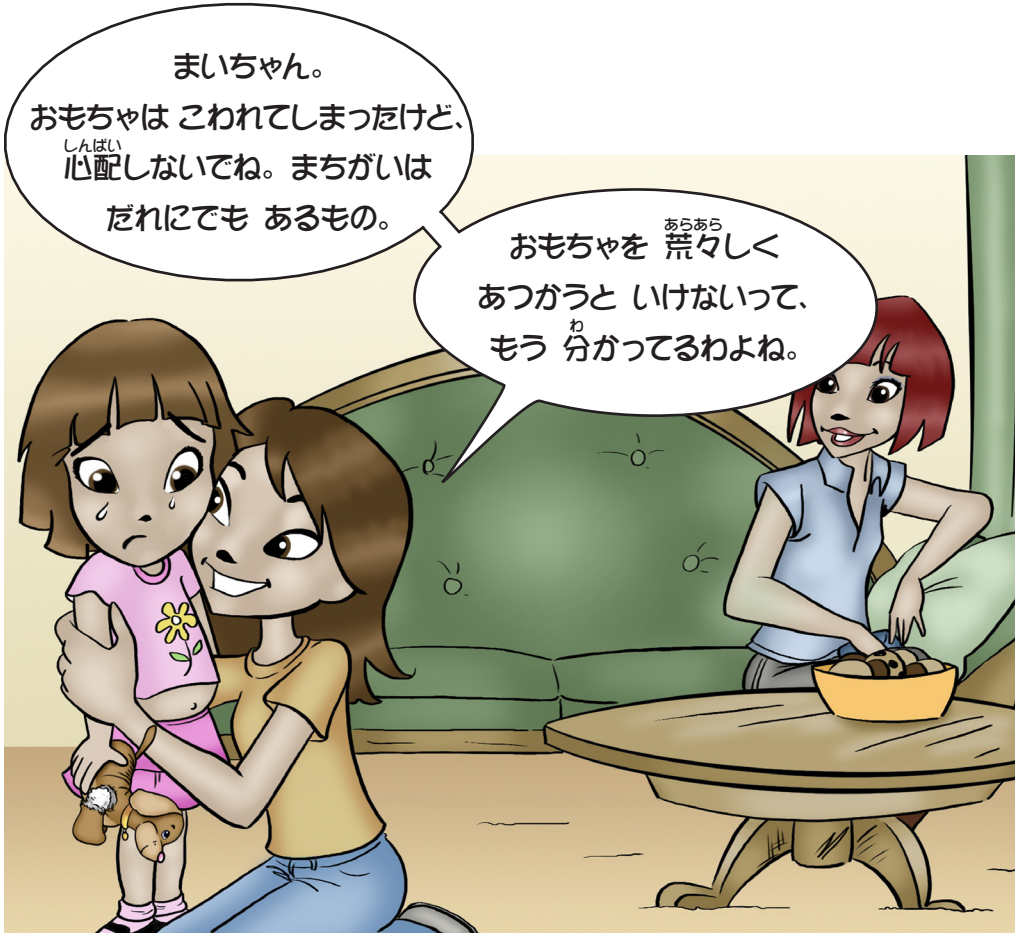
では、自分たちと 同じ 宗教では ない ヘブル人の 少女が 言ったことを、どうして ナアマンと その 妻が 喜んで 受け入れたか、その 理由を 考えてみましょう。
話を 簡単に するために、ナアマンの 妻を、「ナアマン夫人」と 呼ぶことに しましょう。



使用人だった 少女は、気立てが よく 素直で よく お手伝いする 子だったのでしょう。それで、ナアマン夫人に 気に 入られたのでしょう。

そういった 長所は、少女が 自分の 信じていることを ナアマン夫人に 話す きっかけを 作ったのでしょう。





あなたが 家族や クラスメートに 対して やさしく 接しているのを 見る 人たちは、あなたの 内に イエス様の 表れを 見ることが できます。

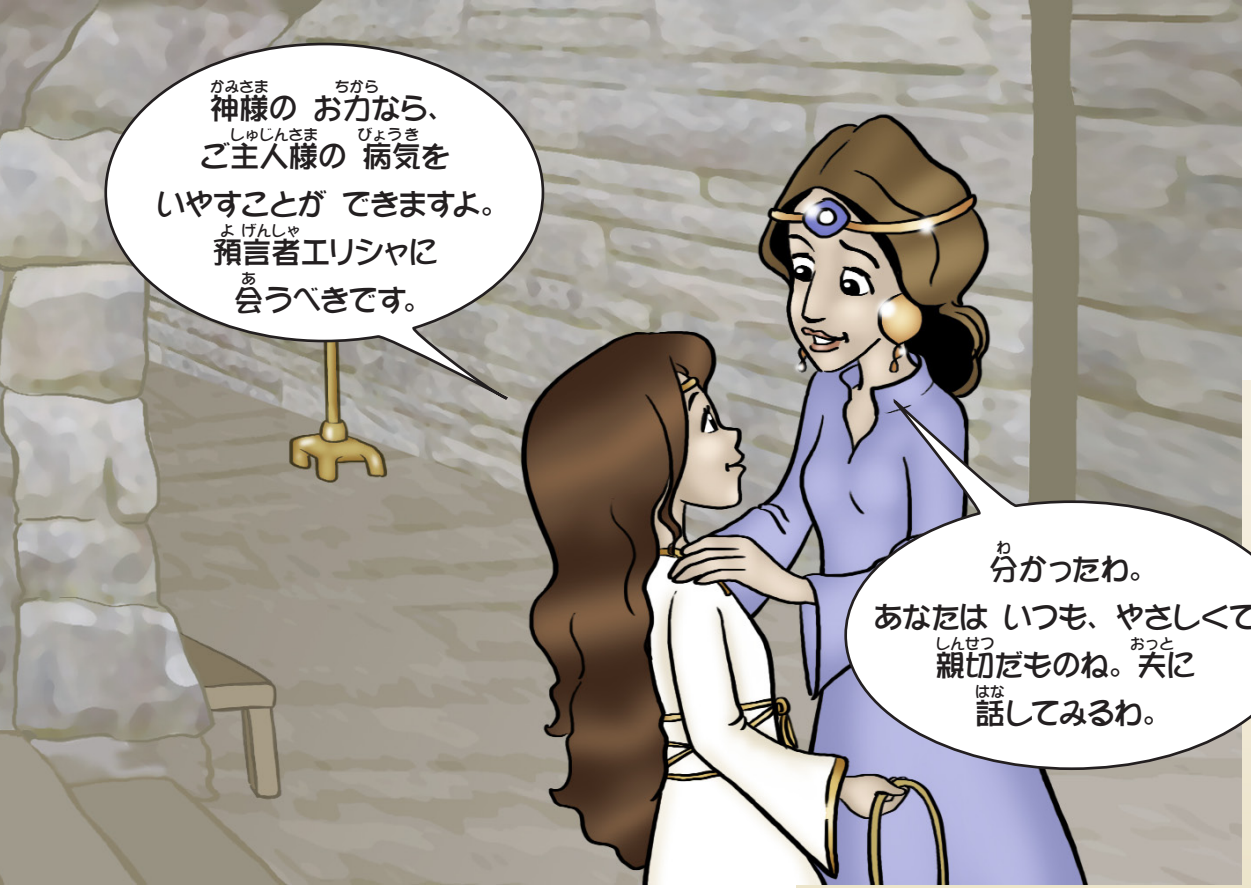
つまり、イエス様が みんなを 思いやり、幸せに できるという お手本を、あなたの 内に 見るのです。

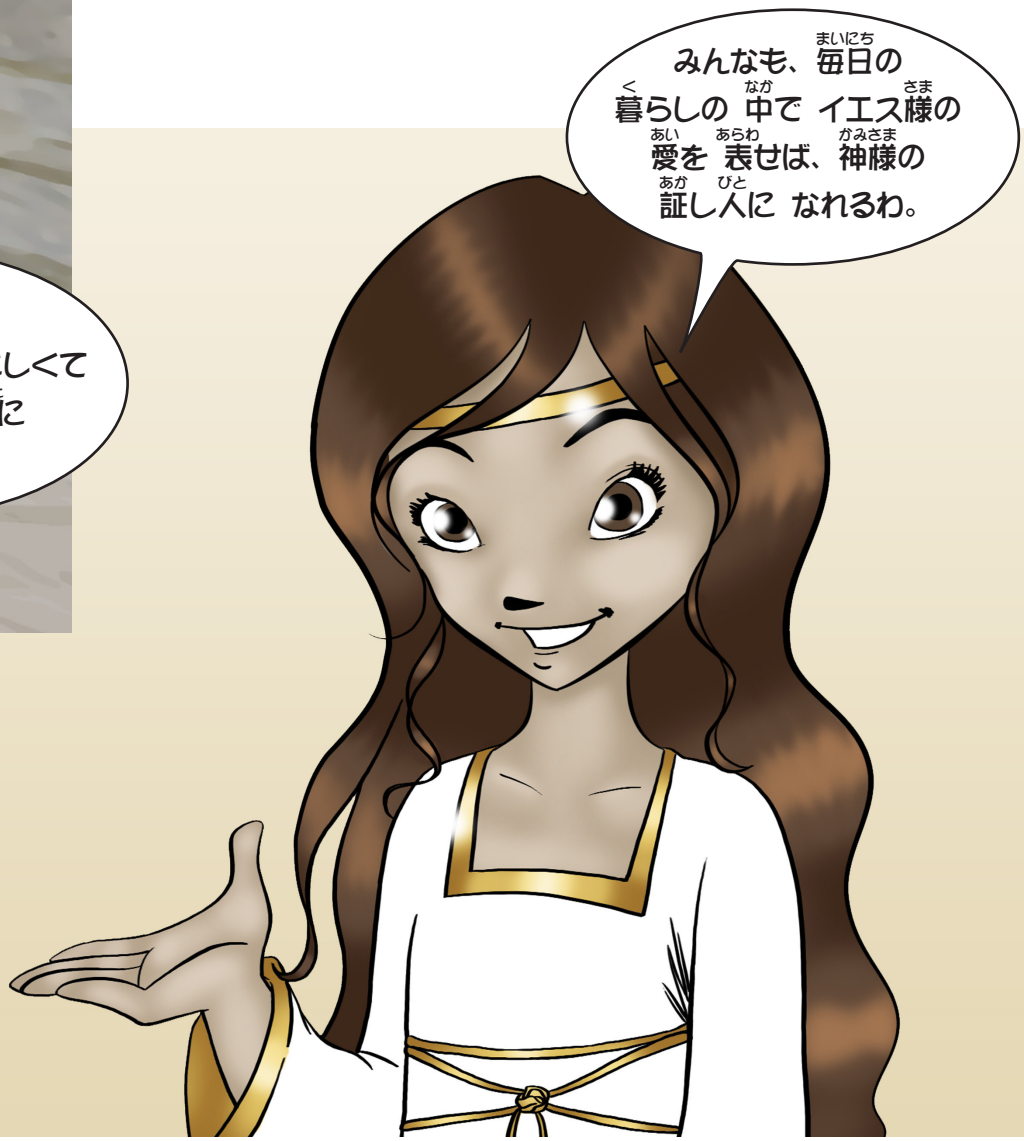
あなたを 見る 人たちは、どうしたら 自分の 暮らしにも 同じような 良いものを 持てるか、知りたくなります。

もし 使用人だった 少女が、素直で なく、親切でも なく、お手伝いも したがらなかったら、ナアマン夫人は それほど 彼女を 信頼したりは しなかったでしょう。

そして、神様には この つらい 病気から ナアマン夫人の 夫を いやす 力が あると 話したとしても、ナアマン夫人は 使用人の 少女に 耳を 貸すことは なかったでしょう。

ヘブル人の 使用人だった 少女は、ナアマン夫人に 対して、いつも
神様の 愛と 忠実さの 良い お手本だったので、ナアマン夫人は、
喜んで 少女の 勧めに 耳を かたむけたのです。





あなたがたの 光を 人々の 前で 輝かせ、
人々が あなたがたの 良い 行いを 見て、
天に おられる あなたがたの 父を
あがめるように しなさい。
（新改訳聖書、マタイの 福音書 5:16）

寄稿：クリスティ・S・リンチ、原作者不明　絵：レイラ・シェイ　デザイン：ステファン・ミーラー
出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2013 年、ファミリーインターナショナル
“A Caring Servant” --Japanese　http://www.mywonderstudio.com